JAPAN CONGRESS ON EVANGELISM

JCE7 開催地委員会リポート“特別号” vol.12

JCE7 実行委員長挨拶

東海地域にある諸教会と兄弟姉妹の皆さま

本来であれば、皆さまに直接お会いしてお話しなければならないことですが、コロナ禍の状況でもあり誌面でご挨拶させていただきたいと思います。

ふだんはお互いに召された教会に集まって礼拝をささげ、それぞれの地域や職場においてイエスキリストに仕えている私たちですが、私たちの共通する祈りは、私たちの愛する日本のすべての人々に福音が証しされて、人々が住むすべての地域に主の教会が生み出されていくことであると思います。

今から約 50 年前に、「日本をキリストに」というテーマのもとに第一回日本伝道会議が行われました。その目的は、聖書信仰に立つ諸教団、諸教会、宣教団体等が、福音宣教のために具体的な協力計画を進めることです。それから半世紀が経ち、社会も変化し、宣教の様子も変わりつつありますが、そのような中でも今日まで「福音の信仰のために心を一つにしてともに戦って」（ピリピ 1:27）くることができたことを、主に感謝したいと思います。そして、パウロがピリピ教会に書き送ったように、「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています」（1:6）との思いを、あらためて共有して、与えられた働きのために立ち上がっていきたいと願っています。

ご存知のように、来年 9 月のシルバーウィークには、岐阜市長良川国際会議場において JCE7・第 7 回日本伝道会議が行われます。四日間の本会議とともに、東海フェスティバル、東海合同礼拝などが準備されています。すでに 170 ほどの教団、単立教会、宣教団体、神学校などが協力団体として登録を終え、当日は 1000 名余の会議となる予定です。そこに開催地である東海地域の諸教会からもご参加いただきたいと願っています。これは、東海地区で開催されますが、国外日本語教会、また国内の外国語教会も含めて日本全体の宣教協力について振り返り、話し合い、計画する集まりです。

一年前となり、実行委員会とともに、東海地域の牧師先生方を中心とする開催地委員会による準備も進められています。この会議が、ポストコロナの時代に向かう教会を励まし、宣教協力の態勢を強め、また何よりも東海地域において大きな祝福となることを願っています。東海地域の牧師先生方には様々な点でご労を担っていただいています。この交わりが新しい時代の力強い宣教の推進力となっていくことを期待しています。また、皆さまにも会議への参加、あるいは当日のボランティアを始めとする働きにも加わっていただくことができればと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

JCE7 実行委員長
小平牧生（基督兄弟団西宮教会ニューコミュニティ）

JCE7・一年前キックオフ大会『プレ東海フェスティバル』が開催されました

2022/9/19(火)台風 14 号が接近に伴い、開催の判断を迫られる状況でしたが、ボランティアの約 20 名の大きなご奉仕に支えられ、無事に集会を終えることができました。当日は、会場参加を断念された方もいらっしゃった方もおられた思いますが、YouTube 配信リンクを東海地区限定で、急遽できる範囲でお伝えする対策を取りつつ、会場 200 名弱、配信約 100 名の参加により、主を共に賛美し、みことばに触れる機会を持つことができ、本当に感謝でした。

(JCE7 開催地 YouTube チャンネルから ➔ JCE7・プレ東海フェスティバル)

開催地委員会のビジョンでは、『神の国のインフルエンサーとなる』ことを目指し、JCE7 開催後も東海地域の継続した宣教協力を願い、準備しています。今回は、開催地の地元となる岐阜で、すでに宣教協力の取り組みをされている、『ゴスフェス岐阜』にパーフォーマンスしていただき、メンバーの中にノンクリスチャンの方々もおられ、一緒に主を見上げていく機会を持つことができました。ディレクターの川村真示師(岐阜キリスト教会)にメッセージしていただき、私たちの中にある、輪中のような心を取り除いていただき、そのような思いを「終わり」にしていきましょうと、励ましとチャレンジを受けることができ感謝でした。

また、開催地委員会の取り組みである『S&L ネットワーク』について、内山勝師(インマヌエル名古屋教会)より、プレゼンがなされ、これからの宣教を共に考え、信徒一人ひとりに与えられている賜物や立場、職業を用いて、東海地区の宣教に一緒に取り組んでいきましょうと提案がなされました。

(S&L ネットワークについて ➔ https://youtu.be/1hEP8sF-KcY)

今回、一年後に行われる JCE7・本大会ならびに、東海フェスティバルの会場となる「長良川国際会議場」を使うことができ、良い予行演習となりました。開催地委員会としても、まだまだ十分とは言えない点も幾つかあがり、来年の備えをしていかなければと気付かされ、多くの助けが必要だと感じています。この実質的な必要のためにもお祈りたいだきたいです。

【 ラッパを吹き鳴らす者たち、歌い手たちが、まるで一人のように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパとシンバルと様々な楽器を奏でて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と主に向かって賛美した。そのとき、雲がその宮、すなわち主の宮に満ちた。 歴代誌第二 5:13 】

依然コロナ禍中でもあり、来年どのような状況かも分かりませんが、一所に集まり主を賛美できたことが久しぶりであった方もおられるのではないかと思います。私たちの救い主であるイエス・キリストを共に見上げ、賛美する喜びを再確認すると共に、来年の JCE7 を通して、力の限り主を賛美し、褒め称え、みことばに触れ、礼拝し、東海地域の宣教協力の前進となり、日本全体に影響をもたらすことができる『神の国のインフルエンサーとなる』よう、共に立ち上がっていきましょう！

JCE7・開催地委員会 プログラム担当
森山剛（日本 CCC）